

医療安全ニュース 9期/12号

9期総まとめ HP でいつでも再確認出来ます

年間事例報告数

対象期間: 20180601~20190531

	Lv0	Lv1	Lv2	Lv3a	Lv3b	Lv4a	Lv4b	合計
ハイケアユニット	11	47	16	14	2	0	0	90
4階東病棟	9	74	38	7	5	0	1	134
5階東病棟	3	25	16	10	0	0	0	54
5階西病棟	14	39	33	16	0	0	0	102
6階東病棟	2	42	29	11	1	0	0	85
7階東病棟	0	26	11	2	1	0	0	40
7階西病棟	7	33	12	22	2	0	0	76
手術室(OP)	22	8	0	1	0	0	0	31
中央外来	5	18	5	2	0	0	0	30
血液浄化センター	0	8	1	0	0	0	0	9
健康管理センター	0	1	0	0	0	0	0	1
歯科(職)	0	2	0	1	0	0	0	3
消化器センター外科	0	0	0	0	1	0	0	1
栄養科	7	48	0	0	0	0	0	55
理学療法科	4	14	14	5	0	0	0	37
作業療法科	0	6	6	0	0	0	0	12
言語療法科	1	3	3	0	0	0	0	7
臨床検査科	1	1	3	2	0	0	0	7
病理検査科	2	0	0	0	0	0	0	2
医療福祉科	1	0	0	0	0	0	0	1
医療連携科	2	1	0	0	0	0	0	3
放射線科	0	20	13	1	1	0	0	35
薬剤科	44	22	6	2	0	0	0	74
臨床工学科	0	6	2	0	0	0	0	8
合計	135	444	208	96	13	0	1	897

1号: 9期医療安全計画が始まりました

医療安全計画を各部署が立案・実践することで、全病院的に患者安全を向上させることを目標に、医局も含めた各部署の取り組みが始まりました。

2号: レジリエンス(回復力・復元力)の強い組織へ

個々のレジリエンスを強くすればレジリエンスの強い組織が形成され、仮に重大事故が発生するような場面でも成長に変えられる可能性があります。

3号: ヒューマンエラーとは原因ではなく結果です!

「ヒューマンエラーをなくすことは出来ないがコントロールする事は出来る」、との考え方からエラーが事故にならない工夫を実践し事故防止対策とします。

4号: コミュニケーション

医療安全研修会でもテーマとなっていた「コミュニケーション」について具体的な事例を示して解説しています。Q: 超一流は何を使うのでしょうか?

5号: 状況認識(Situation Awareness)

状況認識の3つのレベルとその限界についての解説。「何か変だ?」と感じたら決してそのままにせず納得ができるまで確認することが必要です。

6号: SpO2(動脈血酸素飽和度)と呼吸不全

SpO2は99%でも呼吸不全の可能性は否定できません。加えて、呼吸数や聴診所見など気道閉塞のチェックや記録も重要とされています。

7号: 2018年1月~12月の事故報告書から

1年間の報告書から要点と転倒転落事例についてピックアップしました。

臨時/1号: ギャッジアップは観察しながら!

病棟で発生した3b事例より、概要と要因分析・再発防止策の提示です。

8号: 医事紛争にならないために~患者さんの送ってくるサインを見逃さない~1 患者さんへの丁寧な受け答えを意識することで不安を取り除く、見えない不満に対応することが求められています。

9号: トリアージについて トリアージの実施方法や問題点など、災害の場面で困らない使用方法について解説しました。当院でも「統一トリアージタグ」が総務課に100枚保管されています。

10号: 正常化の偏見 normalcy bias 災害現場だけでなく医療現場でも起こっている「正常化の偏見」について、実際に発生した事例なども含め対策を提示しています。今、非常ベルが鳴ったらどうしますか?

11号: コミュニケーションテクニック、SBAR(エスバー)+C? 緊急を要する患者さんの状態について医師へ注意喚起し、対応が必要である重要な情報を的確に伝えるためのテクニック。普段から心がけておくと緊急時にもスムーズに使うことが出来ます。

職員の皆様へ: お読みになりましたら下記へサインをお願いします。院内ラウンド時に確認させていただきます。